

然るに1952年1月、吉野群山に詳しい岸田日出男氏と共に奈良県吉野郡伯母峯附近の山をこの土地の天ヶ瀬部落の古老に案内してもらつて歩いていたら、たまたま話がギョウジャノミズの名の真疑に及んだ処、古老はその名の真実を主張し、且つ水を出す実演をしてくれた。その方法は、墓を1mばかりの長さに切り採り、切口の一方を口にくわえて吹くのである。そうすると他端の切口からきれいな水がこんこんと滴たり、これを掌に受けて呑むのである。

われわれもこれにまねて滴たるきれいな水を何回も呑み、渴をいやすに充分であることを初めて知つた。

なおこの土地の柚夫は、事実山林作業中に渴えたとこの墓の水をこの様な方法で飲むのみならず、もし眼に物が入つたり、或は眼をわずらつたりすると、この墓を切つて一方の切口を口にくわえて吹き、他端の切口を眼の上にあて、吹いて出てくる水を眼の中に入れて洗眼し、不思議に眼のいたみや病がなおると云われている。(奈良女子大学)

○新歸化植物報知 (1) (杉本順一) Jun'ichi SUGIMOTO: Notes on the naturalized plants of Japan (1).

1. *Ambrosia trifida* L. クワモドキ, ヲナモミモドキ (山蔦一海: 満洲植物目録1925) キク科。葉は対生して3-5中裂する。花序と花はブタクサに類する。昭和27年大村敏朗氏が静岡県清水港で無花株を採集して植えて花を見たもの。原産地は米国。

2. *Picris echinoides* L. ハリゲコウゾリナ (新称) キク科。コウゾリナに似て刺状剛毛が著しい。総苞の片は葉状を呈する卵形である。果実には長刺と先に冠毛がある。昭和27年杉野孝准氏が同じく清水港で採集した。原産地は歐洲であるが米国へも侵入している。

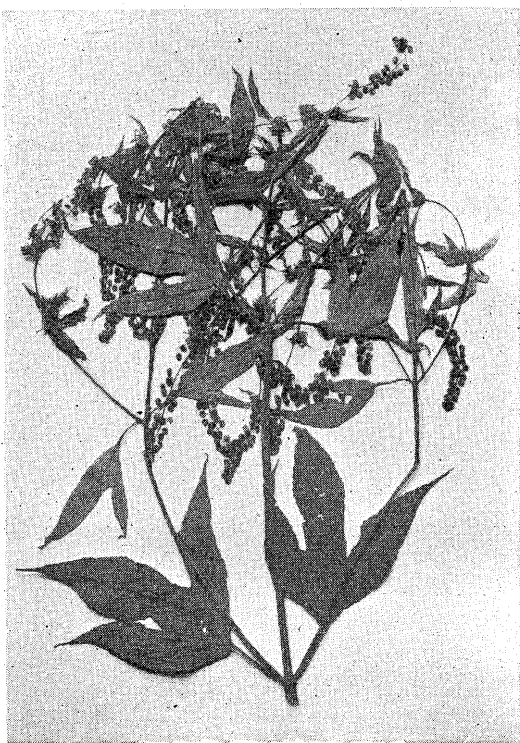
3. *Gifola germanica* Dumort. キヨミギク (新称) キク科。全草白い綿毛に被われてチチュゲサに似ている。併し本属は花序托が柱状に伸長していることが特長である。三種の管状花と冠毛とを有する。昭和27年杉野孝准氏が清水港で採集した。原産地は歐洲で米国にも帰化している。

4. *Sicyos angulatus* L. アレチウリ (新称) ウリ科。蔓草で卷手は3-4岐する。葉はうすくて五尖裂である。雄花は総状花序に、雌花は頭状に着いている。果実は長い刺毛がある。昭和27年大村敏朗氏が清水港で採集した。原産地は歐洲で北米にも帰化している。(静岡市)

○クワモドキ関東にも出現 (久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: *Ambrosia trifida* has infiltrated into Japan.

最近千葉大学の渡辺清彦教授から千葉市内で採られた巨大なブタクサをつきつけられた。それはいうまでもなく *Ambrosia trifida* L. Great ragweed である。満洲に於て

は既に山蔦一海氏により採集され (1924), 同氏によりクワモドキ, フナモミモドキなどの和名が与えられている巨大な草で, 北米原産のものである。葉は通常対生で莖の上部のものは披針状橢円形全縁であるが, 中部のものは葉幅を増してまるみをおび 1 回 2-3 中裂し, 2 中裂の場合には, しばしば裂片が不均対に対向する。下部のものは更に丸味をおび多くは 5 浅一中裂する。まことに不安定な葉形を呈する。小形の個体では往々披針状橢円形の全縁葉だけになり, 東大や科博にある山蔦氏の標本中にそんなものがある。つまり var. *integrifolia* T. et G. というのに該当するが余計な名



クワモドキ 千葉市で見つかったもの

で, 個体変化に過ぎない。雄花は莖の頂部に穂状につき, 雌花は葉腋に塊状に集り, 果時には径 1.5-2 cm の団塊をなし, 少数の瘦果のみ發育して不稔花の多い団塊から著しく突出している。瘦果は中央が突起し, これを 5 個の小突起がとりまいていて, 色は淡褐色, 長さは中央突起とも 1 cm 幅 0.5 cm 位である。要するにブタクサに比し果実が大きくかつ結果率が低い。また外来植物表が 1 行ふえた。

○ナリタゴケの新産地 (建部恵潤) Yejun TATEBE: *Nanomitrium tenerum* found in Prov. Harima.

野口, 高木両教授の報告 (本誌 23 巻)によると, 本邦に於けるナリタゴケの産地は, 仙合市, 越後角田, 名古屋市, 肥後荒尾市である。本種の生育環境は干上つた池沼の泥土上であるが, かかる池にはなかなか出会いにくい。筆者は昭和 25 年 1 月, 兵庫県揖保郡林田村の名勝鴨池群の池底に本種の発生を見出し多量に採取することができた。野口教授によると, var. *longifolium* (Philib.) Limpr. のカテゴリーに入るべきものの由である。稀産品であるから此処に新産地を報告する。(兵庫県宍粟郡安富中学校)